

市長の伊賀じまん

—伊賀に息づく石の文化—



伊賀は、石の文化が息づいている地域です。例えば、伊賀上野城の高石垣は誰が見てもすごいなあと思うのではないのでしょうか。伊賀は古くから荒木石などの良質な花崗岩などの石材に恵まれたことから、大和や近江の影響を受けて石造美術品が盛んに造られました。

槇山の山中に残る石造物で、鎌倉後期の特徴を持つ石造宝篋印塔は非常に立派なもので、その美しさに心を惹かれます。また、石幢と言って、灯籠の明かりを灯す部分を造っていない石造物があります。普賢院(玉瀧)の六角型の石幢は6面に地蔵が刻まれ、美しい彫技が見られます。隣接する玉瀧神社の境内には、手洗鉢として利用されている国内最大の石造湯槽(石の風呂)があり、鎌倉後期の作とされています。

また、市街地から国道163号を大山田方面に向かう途中に、中ノ瀬磨崖仏という鎌倉期から室町期にかけて造られた磨崖仏(岩壁に彫られた仏像)があります。服部川を挟んで南側に街道があった頃は、

▼市内の地蔵盆 ▶普賢院の石幢



旅人たちが旅の安全を願って対岸を拝んだのでしょうか。

伊賀市内ではあちらこちらでお地蔵さんがまつられ、8月に地蔵盆が行われています。子どもの頃は、地蔵盆が楽しみであるのと同時に、夏休みの終わりを告げる行事として、この時期になると嬉しさとともに少し寂しさを感じたものです。私が知っている地域の地蔵盆では、子どもたちが「なんぶくなんぶくお地蔵さん、梨、栗、おあげなしておくれんか」などと唱えごとをしてお参りの人々を迎えていたことも懐かしい思い出です。地蔵盆は京都や奈良、滋賀などで盛んな風習ですが、伊賀でもこの風習が今も生きています。

石にまつわる文化や美術品は、普段は目を向ける機会が少なく、また、どこにでもあると思いがちですが、実はほかではなかなか見ることができない誇るべきものです。ぜひ皆さんにも石の文化を訪ねていただきたいと思います。(伊賀市長 岡本 栄)

『伊賀市史』第2巻

まもなく発刊!

市史編さんだより (42)

市史編さん事業は、市民の皆さんの郷土に対する誇りと愛着の上に、さらなる関心と深い理解を得ることを目的に進めています。

まもなく、この市史編さん事業の6回目の配本である『伊賀市史第2巻 通史編 近世』を発刊します。

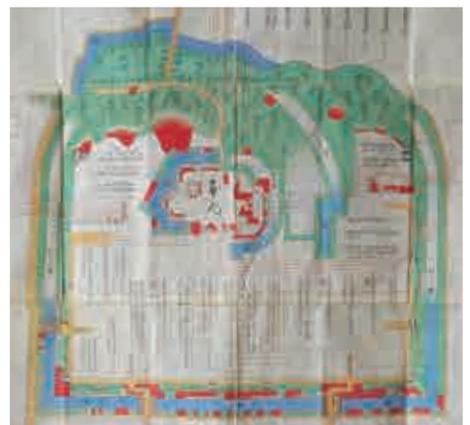
今回発刊の第2巻は、既刊の『第5巻 資料編 近世』やささまざまな資料をもとに、江戸時代の伊賀地域の歴史について叙述したものです。本文約970頁、巻頭写真15点で、本文には写真145点、図表231点を収めました。また、巻末には寺子屋や寺院・神社などの一覧表を付けました。

本文の内容は、藤堂高虎の伊賀入国から廢藩置県までの歴史を全9章にまとめ、伊賀城代藤堂采女家を中心とした藤堂藩政、城下町や宿場町、村々における人々の暮らしぶりを描いています。

また、無足人制度や伊賀者といった伊賀地域の歴史ならではの事柄に注目し、忍者のイメージとは大きく異なる伊賀者の実像にも迫りました。

さらに、当時の災害を現代の教訓にするため、伊賀国北部を震源とした幕末の大地震「安政伊賀地震」について、その発生状況や被害状況な

▶安政伊賀地震の上野城被害図 (伊賀文化産業協会所蔵)



どを叙述しています。

ほかにも、俳聖松尾芭蕉を生み出した俳諧文化をはじめ、江戸時代の文人や著作物、さらには伊賀地域の産物などについても叙述するなど、高虎をして「秘蔵の国」と言わしめた、近世伊賀国の歴史が凝縮された一冊になっています。

10月から購入予約の受付を開始し、12月には市内の書店などで販売をはじめの予定です。11月末までにご予約をいただいた場合、特価4,000円(定価5,000円)でお求めいただけます。

購入方法などは、市ホームページや書店でご案内します。詳しくはお問い合わせください。

総務課市史編さん係

☎ 52・4380 FAX 52・4381